



## 4月の青空の下、庭に

チューリップの花が咲いています



大阪で独立、会社を立ち上げ

学研（学習研究社）という全国組織の図書を中心に発行している大きな会社があります。その会社で以前よりリコーマイチイチャーと同じ様な教育機器を販売していました。それは知っていたのですが、その学研大阪支社の担当者が私のところに訪ねて来ました。

「籠谷さん、リコーをお辞めになったと伺っています、本当ですか」「本当ですよ」「では、次はどうされるのですか、どこかに就職でも」「私は余計なお世話だと思いましたが、その方の誠実な態度についてほだされて「いえ、なにか商売をしようと考えています」とい本音を言っていました

ました。「そうですね。では突然のご提案ですが、私どもの教育機器でナカビゾンというのを発売しているのですが、もうよくご存知だと思えますが、その代理店をしていただけませんか？」突然の提案です。私は少しの間黙って考えていました。

それまでに7人の部下たちから、いろいろな商品の販売の提案がありました。たがどれもマイチイのものばかりで、それで会社を起こしてとまではいかないで、話し合いが続いていた。学研という大きな会社の商品なら市場での信用は申し分ないので、マイチイチャーと同じような物というよりそっくりに作られた、音声の出る、磁気シートで勉強するものですので、代わり映

えがしないので、少し学研の担当者の提案に対して、「ありがとうございます。一度みなどと相談してご返事をしたいと思えます」と私は答えていました。担当の野村さんは「後々大変お世話になる人ですが年齢は三十五、六でしょうか、私より五、六歳年上の方です」「結構です、ゆっくりお考えください。私どもとしては、代理店の数があり足り困っています。良い返事をお待ちしています」と言って帰って行かれました。

この話を7人のメンバーを呼んで話をする。「代わり映えがしないですね」「学研の名前はいいのですが、その商品は大丈夫ですか」「どれくらい権利金等積むのですか」「いろいろ意見が出ましたが、係長の井上という子が「課長、それは売れると思います。私は絶対自信があります。売らせてください」と言っ

てきました。私は「権利金等始めるに於いてのお金の話はまだしていません。だが、この商品でやって行けるかどうか問題でそこをクリア出来るのであればお金の問題は交渉次第だと思おう」と答えて、今自分たちがいくらの資金があるのか考えていました。皆お金持ちではありません。20代そこそこでお金があるわけがありません。以前皆に聞いてみるところ出せる資金は私が100万円、7人の内出せるのが3人で100万円、合計200万円です。

200万円では自分たちで制作して全国に商品を売り出すことは無理です。やはりどこかの代理店として商品の販売しか道はありません。同じ販売でも大きな会社であれば、寄らば大樹の影で儲けは少ないかもしれません。安定は望めます。もちろん売れればの話ですが。話し合

いは数時間を要しました。賛成、反対、どちらもの意見が出て、反対はもうマイチイチャーと同じものは、マイチイチャーは売りに行くところがなくらい、売り切っているの学研の商品でも同じで売りに行くところが無いので無理という意見。

しかし井上だけが「大丈夫まだ田舎に行けば売れる。回ってないところがいくらでもある」他の者が「井上さん、田舎が終わったらどうする」「その時は又別の商品を探せばいい。私に任せて、この学研のナカビゾン売ろうよ」と熱心に皆を説き伏せています。

この井上の熱意に皆はだんだんほだされて、「田舎回りで売れないことはないと思うがそれがいつまで続くか、それまでに次の商品を見つけないければね」と言うことになり、皆の総意で学研のナカビゾン

ンを売ることになりました。私はすぐに学研の野村さんに連絡をしませんでした。向こうから連絡のあるのを待ちました。けっして、こちらから売らせてくださいとは言わずに向こうから連絡してくるのを待ちました。こちらの有利な条件で契約するためです。5日たち一週間たち10日たったころ野村さんから電話があり、会ってくれとのこと、私は行きつけの喫茶店を指定して、学研の大阪支社には行きませんでした。これも作戦の内です。向こうの土俵ではこちらの条件も出しづらいためであえて喫茶店にし、部下を3人連れていきました。井上は外しました。彼が居たら向こうの条件をなんでも飲んでしまいそうです。リコーを辞めて1ヶ月が経っている春の陽射しが眩しい日でした。私達のサラリーマン生活が終わるかどうかの、交渉が始まろうとしていました。

私はふと順子さんの事を思い出していました。今頃どこにいたのやらですが、しかし無職になった今順子さんと結婚して

なくてよかったのかも、生活が不安定になった今、女房などでもないことです。しかし彼女なら「そんな事はいいの、あなたさえ健康で居てくれたら」と言ってくれるかもと、馬鹿なことを考えながら交渉の日を迎えました。

午後1時の約束で喫茶店に行きました。席はマスターに頼んでいたので隅の4人がけの席に座りました。1時ちょうどに野村さんが一人で来られました。

「そろそろ桜が満開ですね」といきなり野村さんが窓の外を見ながら風流なことをいきました。「そういうええそうですね、そんな余裕もなく過ぎてきて、ゆっくり桜も見えていません」「私達の商談も満開でむかえればいいですね」と野村さん。おつなことを言う人だと感心する私、この先つどの様になつて行くのか。次回のお楽しみ……

籠谷 弘



### 歌声喫茶 4月・5月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

4月11日、25日

5月9日、23日

### 楽々亭第41回 4月の予定

4月23日(火)

西京区役所洛西支所第三会議室

午後1時30分～3時30分



### ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。